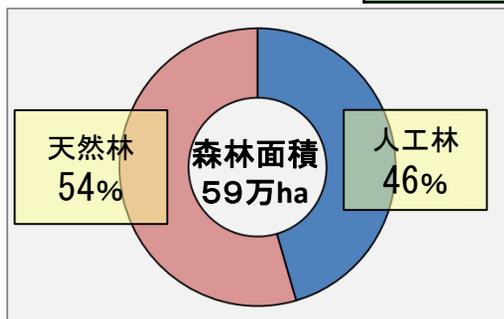


再造林推進の取組

1 再造林を取り巻く現状

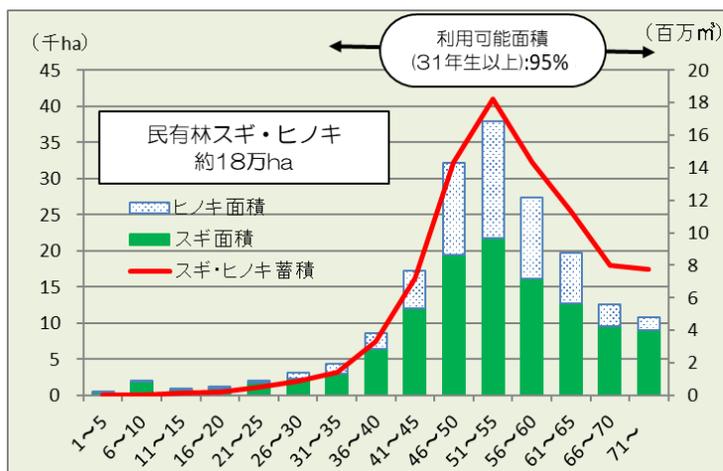
(1) 森林資源

森林面積	59万ha	全国12位(九州1位)
うち人工林面積	27万ha	全国11位(九州3位)



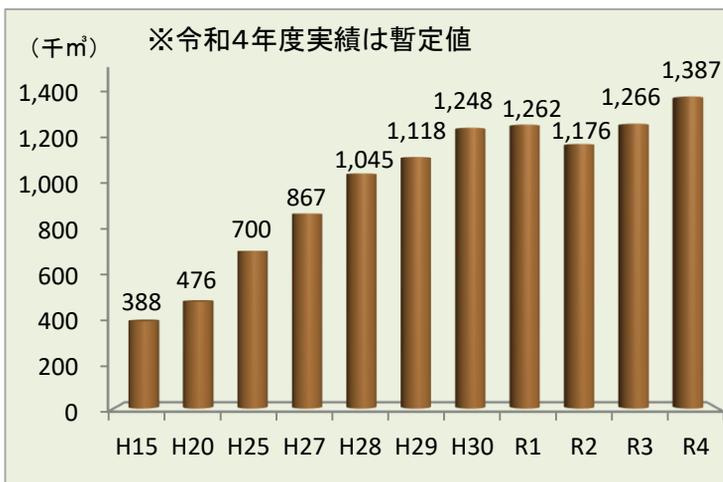
- 県土の約6割は森林
- 森林面積は九州1位, 人工林面積は九州3位
- 民有林のスギ・ヒノキ人工林は, 9割が利用可能

民有林のスギ・ヒノキ人工林面積及び蓄積



(2) 県産材の生産量

- これまで森林資源の充実や大型木材加工施設, 木質バイオマス発電施設の稼働, 東アジアへの木材輸出等により, 増加傾向で推移
- 平成28年度には生産量が25年ぶりに100万m³を突破
- 令和2年度は, 新型コロナウイルス感染症の影響により減少
- 令和4年度は, 木材価格は前年度より低下したものの, 2年度以前と比べ高い水準で推移しており, 生産量は前年度より増加



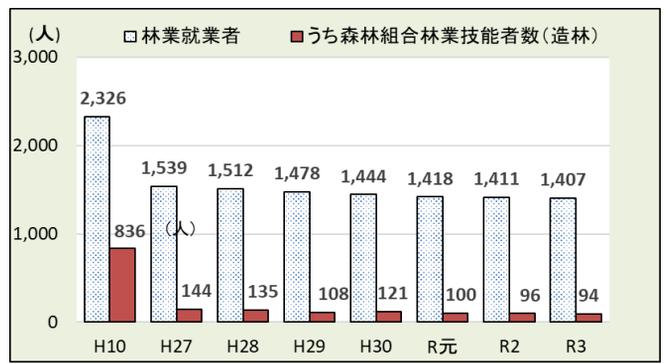
(3) 人工林伐採と再造林の状況

- 人工林の伐採は増加しているが, 再造林も着実に増加しており, 令和4年度の再造林率は6割程度
- 伐採が増加傾向にあることから, 更なる再造林の推進が必要



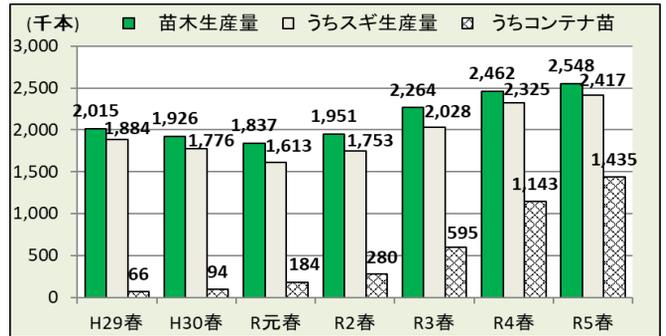
(4) 林業就業者数の推移

- 令和3年度末の林業就業者は、1,407人で近年は緩やかな減少傾向
- 森林組合の林業技能者数（造林）は減少傾向



(5) 苗木生産量の推移

- 令和4年度の苗木生産量は、約255万本、うちスギ生産量は約9割を占める約242万本で、ともに前年度より増加
- コンテナ苗生産量は前年度比126%増加し約144万本



2 再造林の推進に向けて

- 県森林・林業振興基本計画（平成31年3月に策定）
【基本理念】「未来につなぐ多様で健全な森林づくり」と「人が輝き地域が潤う林業・木材産業の実現」を目指して
【目標】令和10年度 木材生産量150万 m^3 、再造林面積1,200ha

(1) 再造林に関する基本的な考え方

- 傾斜が緩やかで、林地生産力の高い人工林
→ 木材生産機能の維持と併せて、公益的機能の高度発揮を図るため、伐採後は確実に再造林・保育を行い、森林資源の循環利用を促進する。
- 急傾斜地や林地生産力の低い人工林
→ 広葉樹林や針広混交林へ誘導するなど、公益的機能の向上を図る。

(2) 具体的展開方策

未来の森林づくり推進プラン（県森林・林業振興基本計画の前期5か年の実施計画）より

① 造林・保育コストの低減

- ・ 伐採、地拵え、植栽の一貫作業による作業効率の向上
- ・ 成長等の優れた新たな植栽品種及び樹種、植栽本数の検討
- ・ 造林・下刈り作業の機械化・省力化に関する検討

② 造林・保育に必要な労働力の確保・育成

- ・ 林業従事者の就労条件の向上と新規参入の促進
- ・ 植栽・保育作業における技術力の向上
- ・ コンテナ苗を利用した造林作業の通年化や林業事業体間の連携促進

③ 優良苗木の安定供給体制づくり

- ・ 優良苗木の生産増大に向けた採穂園や生産施設の整備
- ・ 苗木生産者の確保及び生産技術の習得促進
- ・ 苗木の需給情報の共有

④ 再造林推進に係る体制づくり

- ・ 計画的な伐採・再造林を進めるための森林経営計画の策定促進
- ・ 主伐から再造林・保育に至る施業提案能力を有する森林経営プランナーの育成
- ・ ホームページ等各種媒体を活用した再造林の必要性等の普及啓発
- ・ 伐採・再造林に関する林業事業体の自主規範の策定促進

3 主な再造林推進の取組状況

(1) 造林・保育コストの低減

① 伐採，地拵え，植栽の一貫作業による作業効率の向上

- ・伐採者と造林者が連携した一貫作業を推進

再造林面積に占める一貫作業の割合

R3：46%→R4：61%



(伐採，地拵え，植栽の一貫作業)

② 造林・保育作業のスマート化の推進

- ・ドローンによる苗木運搬，クラッシャーによる下刈等の現地研修会を開催（R4：3地区，6回）
- ・令和5年度からは，再造林等のスマート化による省力化等の取組に係る作業工程や，その収支等の情報を収集



(ドローンによる苗木運搬)

③ みんなの森づくり県民税関係事業による支援

- ・苗木購入費等への助成
(R3：749ha→R4：946ha)

④ 再造林の推進に関する研究

- ・次世代スギコンテナ苗の成長特性の解明
- ・現地条件に応じた下刈作業の省力化に関する研究
〔森林技術総合センター〕



(クラッシャーによる下刈)

(2) 造林・保育に必要な労働力の確保・育成

① 林業就業者の就労条件の向上と新規参入の促進

- ・健康管理や安全確保に必要な設備等の整備
〔県林業担い手育成基金事業〕（R4：8事業体）
- ・就職面接会の開催（R4：6回）
- ・鹿児島きこり塾の開催

受講者数： R4：入門コース 10人
 専門コース 7人



(就職面接会)

② 植栽・保育作業における技術力の向上

- ・機械地拵え技術の習得研修の実施
(受講者：R4：11人)
- ・主伐・再造林を一体的に実施できる現場技能者の育成研修を実施（受講者 R4：5人）



(現場技能者の育成研修)

(3) 優良苗木の安定供給体制づくり

- ① 優良苗木の生産増大に向けた採穂園整備や生産施設整備への支援など

- ・ 県営・民営採穂園の適正管理 (R4: 約28ha)
- ・ コンテナ苗の生産施設等整備 (R4: 5箇所)
- ・ 品種の明確な造林地からの穂木の確保
(R4: 5者, 630千本)



(コンテナ苗生産施設)

- ② 苗木生産者の確保及び生産技術の習得促進

- ・ 生産技術向上講座の開催 (R4: 4地区, 10回)
- ・ 苗木生産相談員による指導
〔 苗木生産者数 H30: 26人→R4: 42人
うちコンテナ苗生産者数 H30: 2人→R4: 31人 〕



(苗木生産技術向上講座 苗作り)

(4) 再造林推進に係る体制づくり

- ① 計画的な伐採・再造林を進めるための森林経営計画の策定促進

〔 令和4年度末認定面積: 約103千ha
(令和5年度末目標: 124千ha) 〕



(森林経営計画作成のための話し合い)

- ② 森林経営プランナーの育成

- ・ 「間伐」や「主伐から再造林・下刈」に至る一連の施業提案能力を有する森林経営プランナー育成研修の開催

一般基礎研修(7月), 経営管理基礎研修(9月)

〔 令和4年度育成者数 27名
" 末現在現役人数 293名 〕



(森林経営プランナー育成の研修状況)

- ③ 再造林の必要性等の普及啓発

- ・ 伐採届出の際, 天然更新の届出を行った者に対して, 市町村と県が連携して再造林を奨励する個別指導を実施
- ・ 適正な伐採と再造林を推進するための普及啓発用チラシを作成・配布 (県内市町村へ配布済み)
- ・ 林業事業者等を対象とした再造林推進セミナーを開催 (参加者: 約100人)

- ④ 伐採・再造林に関する林業事業者の取組

- ・ 素材生産者団体等の自主規範等の策定 (H28.2)
- ・ 環境に配慮して伐採等を行う事業者を認証する制度 (CRL認証制度) 開始 (H30.6~)

〔 認証事業者数 R4:131社→R5:148社
※R5.5.1現在 〕



(再造林推進セミナー:パネルディスカッション)